

角田市都市計画マスタープラン（案）に対するパブリックコメント
（意見募集）の結果について

1 パブリックコメントの実施状況

- (1) 募集期間 平成25年1月25日（金）～平成25年2月7日（木）
 (2) 提出者数 2人
 (3) 意見件数 5件
 (4) 提出方法

提出方法	土木課窓口	郵送	ファクシミリ	電子メール	計
人数	0人	0人	0人	2人	2人

2 意見（提言）及び市の考え方

No.	意見（提言）の要旨	市の考え方
1	太陽光植物工場に関する農協等での研究の推進について	研究を推進して施設の整備を図るとなると、大規模な事業となる提案だと思われます。人口減少が進んでいくことが予測され、かつ費用対効果を考慮すると、都市計画マスタープランに方針として打ち出すことは差し控えたいと思います。
2	電気自動車（セグウェイ等）の採用について	電気自動車の特徴は、「排出ガスを出さない」「燃費がいい」「充電が簡単」といった長所があるものの、「充電時間の長さ」とインフラの未整備、「走行距離が短い」「価格が高い」といった短所もあります。電気自動車が1回の充電で走ることができる距離は、100 km程度です。遠出はできませんが、市内を回するには十分な性能です。このようなことから、ただ導入するのではなく、どう使用していくかが重要になると思います。 都市計画マスタープラン策定の担当課である土木課の公用自動車の使用目的は、通常の場合、道路の維持管理、工事箇所の現場確認、出張などになりますが、大雨や地震などの災害に対し、緊急的対応も迫られることが多く、公用自動車の選定にあたっては、用途目的を十分に考慮しなければ

		<p>なりません。</p> <p>つきましては、電気自動車の導入については、慎重な取り扱いをしていきたいと考えています。</p>
3	新エネルギーの開発に係る出先機関兼実験場所の招致について	<p>環境にやさしいまちづくりの視点からいえば、検討する価値はあると思いますが、現時点で都市計画マスタープランに方針として打ち出すことは差し控えたいと思います。</p>
4	都市計画マスタープラン（案）資料の「将来都市構造図」における「宇宙のまち研究・交流ゾーン」について、JAXA角田宇宙センター敷地だけでなく、スペースタワー・コスモハウスのある台山公園も含めて交流ゾーンとするべきではないか（図に縦ラインをいれてつながりを明確にする。）。	<p>市も同じ考えに立ち、都市計画マスタープラン（案）の29ページの表中の「宇宙のまちの研究・交流ゾーン」の概要に、JAXA角田宇宙センターと台山公園を掲載しております。30ページの「将来都市構造図」の図上に「JAXA角田センターと台山公園をつなげるラインを入れる」ということについては、「将来都市構造図」をみていただくとわかりますが、実線で表記されているのは、道路となっております。JAXA角田宇宙センターと台山公園を実線でつなげますと、まるで道路ができるかのように考えられ、誤解を招く恐れがあります。つきましては、原案のとおりとさせていただきたいと思います。</p>
5	賑わいのまちづくりに関して、新たな施設や公園には、自然エネルギーの利用は、どの程度計画されているのか。	<p>角田市第5次長期総合計画の120・121ページ「低炭素型社会への対応」に記載されている「まちづくりの指標」については、①太陽光発電設置戸数、②市役所の低公害車の導入率、③環境学習会や出前講座の参加者数となっております、特に公園等の公共施設に関する自然エネルギーの利用の計画は示しておりません。</p> <p>公園の整備に係る現状を説明いたしますと、扇町公園及び緑町公園については、トイレの天井部分が自然の光を建物内に取り込める構造になっており、昼間はトイレ内の照明が点灯していない状態でも十分な明るさがあります。</p> <p>また、トイレの便槽については、通常は水洗トイレとしての使用ですが、水洗トイレが機能しなくなった場合は、汲取り式のトイレに切り替える</p>

		<p>ことができる構造になっており、実際、東日本大震災のときは、断水して水洗トイレとしての使用ができなかったため、汲取り式に切り替えて使用できるように対応しました。</p> <p>以上のことから、前述の2公園のトイレについては、エコロジー及び災害対応時の両面において貢献している施設と思われます。</p> <p>今後の公園整備においては、同じようなタイプのトイレを導入することで、更なる環境負荷の低減及び災害対応時に役立つような施設整備に努めたいと考えております。</p>
--	--	--